

社会福祉法人愛篤福祉会は、利用者さんが安心して暮らせる施設づくりを目指します

価値観の変化

ある高校の科学の実験の授業の中で、集中できなかったり遊んでる生徒に、教師が1分間正座をさせ実験の危険性を伝えました。それを子供から聞いた親のクレームをうけた教育委員会は、体罰を行ったという事でその教師を指導した、というニュースを見ました。世も末だと思っは私だけでしょうか。体罰を許容しないのは当たり前ですが、本当に大事な事を目の前のただ置いてあるだけのようないのの為に伝えられないというのは、命の価値観にさえ影響を与えかねません。心肺停止の女性に男性がAEDを使用したらセクハラだと言う方も最近はいらるであなたにとっての命の価値はどこにあるのかと正直聞きたい。

福祉の現場は日常的に障がいの方の人の話が出る事がありますが、人権は国がある限りすべてのものに平等にあり、障がいの有無は関係ありません。ただ、命をつなぐ行動を権利が邪魔するという本末転倒がまかり通りつつあるのが今の世の価値観なのだとしたら、福祉職員の何割かの人々は、利用者さんに踏み込んだ支援を行えなくなっていくでしょう。

時代が変わり価値観もかわるけれど、救いたいという気持ちや行動は変わらないで欲しいと思います。

災害は忘れた頃に

気が付けば7月も無事に終わる...などと思っていた最終日の朝の送迎業務中、原因不明の津波警報、その30分後に知ったカムチャッカ半島でのマグニチュード8.8という東日本大震災クラスの地震の発生。「治にいて乱を忘れず」、孔子が言っていた言葉は、今の世でも通じる大事な事だと心から思いました。

今回の災害が事業所にもたらした影響はありませんでしたが、海辺に住む利用者さんや職員は地震後数日は気がぬけず、津波の恐怖を感じていたそうです。いくつかの道路が封鎖されるなどの措置もありましたが、震災の時は夜中までひたすらの混乱でしたが、一定の落ち着きをもった生活を今回送る事が出来たのは、私達が乱を忘れなかったからだと思います。

事業所では毎月避難訓練を行っています。訓練とわかっていても利用者の皆さんはきちんと指示を聞いて逃げる事が定着しています。人は忘れていく生き物ですが、忘れる量より積んでいく量のほうが多ければ、それはしっかりと身についていくでしょう。保護者の皆さまも緊急避難の気持ちは忘れずに日々をお過ごしください。

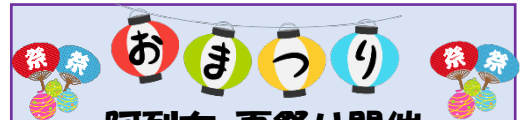
令和7年度下半期個別面談

9月の上旬より、下半期の個別面談を行います。今回は事業所での面談となりますので、事前に配布予定のプリントに希望日を記入して事業所にお戻しください。他利用者さんと日程が重なった場合は、こちらの方で微調整させていただきます。また、急病などで変更が必要な時も調整は致しますので気軽にお声かけください。 担当: 鈴木さゆり

大川原由美

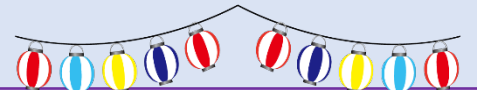
感染症に注意

7月に入り、一時期落ち着いていた新型コロナの流行ははじまりました。との連絡が行政から事業所に届きました。例年、お盆休みを挟んで感染症にかかるかたも多いため、油断せずマスク、手洗い、消毒などの当たり前の衛生活動を忘れないようにしましょう。



阿列布 夏祭り開催

夏祭りを 8/23(土)に開催いたします。毎年恒例の出し物やくじ引き抽選会に加えて、今年はビックサフライス!!三味線日本一の奏者にして、6月より法人の理事に就任された「あべや」様のミニライブも開催します。皆様お楽しみに。



<寄付・物品寄贈の皆様>

大野洋子様 (株)アクティ建築設計様 (株)アシストジャパン様 石井好子様 曳地令子様 東部液化石油油様 常磐パッケージ様
 高木建築デザイン様 鈴木徳子様 山本輝人様 林出一樹様 馬場英子様 <順不同です> ありがとうございました。